

基幹相談支援センターとともに

国分寺市障害者基幹相談支援センターと関係を紡いでくださった方より、メッセージをお寄せいただきました。これからもよろしく願いいたします。

笹渕 真子

東京都教育庁都立学校教育部
学校健康推進課
課長代理（2022年度の肩書き）



基幹の設置10周年おめでとうござ
います。障害者雇用率制度【事業主
に対し、従業員の一定割合（＝法定
雇用率）以上の身体・知的障害者
の雇用を義務付け（※精神障害者はカウント可）】が1976年
の法改正により法的義務となり、以後、何度か改正が行われ、
2013年に2.0%、2018年4月に2.2%、2021年3月からは
2.3%へと段階的に引き上げられてきました。それに伴い、障
がい者の雇用者数は連続で過去最高を更新し、障がい者の多く
は、社会にでて働く機会が多くなりました。

私の勤務する特別支援学校でも就労にむけてのさまざまな支
援が行われています。しかし、学校は、小学校1年から高校3
年生までの12年間、人生のほんの一部にしかなりません。障
害の診断を受けてから地域の支えがなくては、子育てもうまく
いきません。また、高校卒業後就職してもそれからのほうが長
い職業人生が続きます。障がい者が社会にでるためには、自助、
共助、公助の適切な組み合わせによる「自立のための社会的支
援システムの構築」がとても重要になってきます。万葉の里は
地域の中で、さまざまな障害がある方が安心して生活できるよ
う支援して下さる心強い存在です。これからも、真に必要な
支援を提供して下さる基幹を応援していきます。

松村 洋明

医療法人社団根岸病院 常務理事
医療相談室室長



時代とともに、間断なく

基幹相談支援センターをはじめ、
国分寺市の関係機関の皆様には日々
の地域連携にご尽力を賜り、厚く御礼申し上げます。

東京都における1年以上の精神科長期入院患者は2011年に
11,970人、2019年には10,240人と減少してきていますが、
依然として長期入院は精神科医療にとって大きな課題となっ
ています。これからも難治性に経過している患者さまの治療と地
域で支えていく仕組みを融合していくことが重要です。

他方、医療や専門的支援を提供することも大切ですが、それ
らを前提としない介入や見守り、地域生活のなかでの緩やかな
つながりを構築することはそれ以上に求められる時代となっ
ていきます。これからも支援者の皆様とともに研鑽を積みながら、
進化し続ける基幹相談支援センターの更なる発展に向けて全力
を尽くして参りますので、よろしくお願い申し上げます。



木村 利信

株式会社典雅 プロジェクト推進室
able グループ グループマネジャー
able factory 施設長



基幹の研修*では、子どもたちが
自分の心と身体について知り、生命・
人権・人格の尊重を根底にした生き
方の教育が性教育であるという捉え
のもと支援者が集い共に学びました。研修には、放課後等デイ
サービスの従事者が多く参加されていましたが、本社にも放課後
等デイサービスに通所する障害のある男児・女児の保護者からの
相談が多く、つじつまが合いました。

私は、現在、就労継続支援B型の施設長ですが、10年程前ま
では、施設側も障害のある子の性についての理解は乏しく、テ
ンガの商品に対して拒絶反応を示す職員もいました。今回の研修で
は、テンガの商品を手にとってもらい、直接、たくさんの質問を
いただき、支援する職員の関心が高いことを実感しました。

TENGAヘルスケアでは、2019年にセイシル製作チーム**を
立ち上げ、10代の性に関するトラブルの予防・解決、さらに性
に対するポジティブな姿勢を育めるように、中学校、高校への出張
授業も展開しています。文部科学省では、2019年にGIGAスク
ール構想を開始し、各家庭でもICT化が整備され、正確な情報を入
手しやすくなり、相談先も容易に見つけられるようになり、相談
のハードルがとても下がったと感じています。

本社の新たな企業理念に、「[生きる]をよろこぶ世界へ」に、「ワ
クワク」する想いを込めて、人々が健やかに楽しく生きる「生」
を包括的に取り扱う事業展開へと一新しています。

今後とも基幹とタッグを組んで、研修等に全面協力する所存です。

千田 孝一

国分寺市 福祉部 障害福祉課
事業推進係長



基幹と二人三脚での取組

基幹と障害福祉課はこれまで多くの
取組を進めてきました。私が着任した
5年前を振り返ると、随分と状況が改
善されたかと自負しております。これは
一重に、基幹の風通しの良さや障害福祉施策を推進することへの
熱意によるものだと感じています。

まずは、相談支援事業所連絡会が軌道に乗り、活発な意見交換
がなされ、相談支援専門員の事務負担を軽減すべく、国分寺様式
の利用計画や計画相談に関する確認事項を作成するとともに、相
談支援専門員の支援力向上に向けて、研修や事例勉強会、個別コ
ンサルテーション等を実施してきました。

次に、基幹と障害福祉課で共同運営する障害者地域自立支援協議
会は、全体会及び3つの専門部会で当初スタートしましたが、現在
では各専門部会で作業部会が設置され、年間の合計開催回数が50回
を超えるほど活発に活動し、さまざまな取組を行っています。

そして、地域生活支援拠点の拡充については、障害者センター及び
KOCO・ジャムの2箇所でも当初スタートしましたが、現在では相談支援
事業所、短期入所事業所及びグループホーム（1箇所）が加わり、地域
生活支援拠点に必要とされる5つの機能の充実が図られています。

以上の取組が地域のネットワークづくりに繋がっており、関係者で
顔が見える関係が築かれ、更なる取組を実施できる好循環が生まれ
ていると考えています。関係者の皆さまにおかれましては、いつも
好意的に取組にご協力くださり、この場を借りて感謝申し上げます。

これからも、障害のある方が自分らしく生き生きと暮らせるよ
うに、皆さまのご意見に耳を傾け、基幹相談支援センターと二人
三脚でさまざまな取組を進めてまいりますので、引き続きよろし
くお願いします。

*令和4年度国分寺市相談支援スキルアップ研修 ネットワーク研修Ⅲ(児童)「福祉職の性支援と多職種連携～今なぜ、学ぶ必要があるのか?～」開催日時：令和5年2月21日(cocobunjiプラザリオンホール)
**「セイシル 知ろう、話そう、性のモヤモヤ 10代のための性教育バイブル」(著：セイシル製作チーム) 2022年発行 | 株式会社 KADOKAWA